

新年のごあいさつ



あふれる笑顔、健やかで活力みなぎる弘前へ 市長 葛西 憲之

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。昨年は、一部で秋の暴風による被害などはありませんでしたが、大きな自然災害に見舞われることなく、多くの市民の皆様におかれましては、安心して穏やかな新年をお迎えのことと思います。

昨年、当市の人口が25年後には4万人以上も減少するという推計値が示されました。何もしなければそうなります。このまま人口減少が進むと、まちの活力が失われます。**そうはさせません！**子どもたちの笑顔は地域の活力や誇りを写す鏡です。子どもたちの輝く笑顔を見続けていたい、そんな想いで昨年9月「弘前市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、働く場の創出や、移住対策、結婚・出産・子育てへのサポート、健康寿命の増進など、誰もが住んでみたいと思えるまちづくりに積極的に取り組み、人口減少の抑制に努めております。

また、100年ぶりの大工事となる「弘前城本丸石垣修理事業」での弘前城天守の曳屋（ひきや）は、多くのメディアに取り上げられ、「弘前」が日本のみならず世界にも注目されました。皆で一丸となって取り組めば実現できることが証明された実感しております。

今年は、1月からの中国国際便の青森空港および函館空港への就航や3月26日の北海道新幹線新函館北斗駅開業により、空路と陸路を利用した本格的な立体観光が実現し、まさに国際広域観光のスタートの年となります。当市には「弘前城」や「さくらまつり」をはじめ、自然、歴史、文化、伝統など多彩で優れた観光資源や、りんご産業のほか、魅力ある工芸品などが数多くあります。当市の魅力を国内外へ戦略的に情報発信し、多くの観光客を呼び込み、交流人口の拡大を図ってまいります。

「子どもたちの笑顔あふれるまち弘前」を目指し、人口減少の抑制に向けて、市民、企業、行政等の連携・協力のもと「オール弘前」体制で地域経営を行ってまいりますので、市民の皆様には、一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。

終わりに、本年が輝かしい年となりますことを心からお祈り申し上げまして、新年のごあいさつといたします。

年頭にあたって

新年あけましておめでとうございます。皆様ご壮健にて新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、弘前城本丸石垣修理のため、天守が曳屋により移動しました。私が子どものころから、下乗橋から見上げると、いつもそこには天守の雄姿がありました。しかし、今はそこに天守はありません。石垣が修理され、しっかりした土台の上に天守が戻ってくる日が今から楽しみです。

さて、今年2月、弘前、岩木、相馬が市町村合併し、新弘前市としてスタートして10年、節目の年であります。新しい弘前市は、四季折々に変化する豊かな自然に恵まれ、また、特色ある歴史的、文化的資源や観光資源などを数多く有し、自然環境、生活環境、都市機能のバランスのとれた都市です。それぞれの地域において、長年にわたり培ってきた豊かな地域資源や、先人の方々が守り育てこられた貴重な知恵と伝統、誇るべき文化的財産が土台となって、今の弘前市があるのだと思います。私も市議会といたしましても、この土台の上に、市民の皆様が夢と希望を抱けるまちづくりを進め、更なる飛躍の年にしたいと気持ちを新たにしたいところです。

今年の干支は申（さる）。お年玉付き年賀はがきの切手部分の申、12年前は1匹の申でしたが、今年は親子連れとなっていることにお気づきでしょうか。

市では現在、人口減少対策に重点を置き、「オール弘前」体制で課題解決に取り組んでいます。「産み・育てたいまち」を目指している弘前市にとって、年賀はがきの親子連れの申は、明るい兆しの象徴に思えます。12年後の年賀はがきの申は、子どもが増え、大所帯となっていることを期待しています。

最後になりますが、この1年、皆様にとりまして健康で幸多き年となりますことを心からお祈り申し上げまして、年頭のご挨拶といたします。